

小学校第6学年 外国語活動 学習指導案

1 単元名

I like my town. 「御船町の未来予想図を提案しよう」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校新学習指導要領における第2の2内容(3)①言語活動に関する事項ア聞くこと(ウ)、イ読むこと(ウ)、エ話すこと「発表」(ウ)、オ書くこと(ウ)(エ)を受け、自分が住んでいる御船町のよさや将来への願い等について、伝えたいことを整理して発表することをねらいとしている。

児童はこれまで、国語科の授業において、御船町のよさを紹介するパンフレット作りを体験している。また、4年時に総合的な学習の時間で、地域の歴史や文化について調べたりまとめたりする活動も行っており、自分たちの住む地域について関心を持っている。

今回、自分たちの住む御船町のよさだけでなく、将来どのような町にしたいのかを考え、英語で発信する活動を設定する。聞き手に分かりやすく伝えることを目的とした一連の言語活動を通して、児童は、コミュニケーションの楽しさや大切さを理解するだけでなく、地域への愛着や誇りを持つことにもつながることが期待でき、児童一人一人が御船町の未来の創り手として主体的にかかわっていきこうとする態度を育むことにもつながると考える。

これらのことから、本単元における学習は、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

(2) 系統観

言語の働きに関する事項 「事実・情報を伝える：発表する」

第5学年	第5学年	第6学年	第6学年(本時)	第6学年
Unit 5 「she can run fast. He can jump high.」 できること	Unit 3 「He is famous. She is great.」 人物紹介	Unit 5 「My Summer vacation.」 夏休みの思い出	Unit 4 「I like my town.」 自分たちの町、地域	Unit 7 「My Best Memory」 小学校生活・思い出

(3) 児童観

本学級は、英語への興味・関心が高く、学習に対して意欲的な児童が多い。担任やALTが話す英語を推測しながら聞こうとしたり、自分の考えを発表する場面では既習内容を用いて伝えようとする場面が多くみられる。熊本県学力調査意識調査結果では、「外国語活動(英語)は好きか」との質問に88.8%と回答している。

本校では昨年度から英語科を新設し、年間70時間の外国語活動を体験している。コミュニケーションに対する意欲の高まりがみられる一方で、扱う言語材料が増えることへの抵抗感や不安を感じている児童もいる。

前単元において、児童は、音声で慣れ親しんだ基本的な表現を用いて、夏休みの思い出を書く活動を体験している。「書くこと」について意欲的であるが、四線上に文字を正しく書き写すことや、語と語の区切りに注意して書くこと等、個人差が大きい。また、「読むこと」については、活字体で書かれた文字を識別したり、慣れ親しんだ語句を絵なども頼りにしながら読んだりしており、文字への興味・関心が高まっている。

(4) 指導観

- 「Small Talk」を適宜設定し、既習表現などを活用した自己表現を体験させ、コミュニケーションへの意欲を高める。
- 発表で使用するポスター作成に向けて「書く」活動にスモールステップで取り組むとともに、音声で十分慣れ親しんだ表現を、書く作業を通して統合していく。

研究の視点1

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ①具体的な課題を設定するとともに、既知の知識や経験を活用しながら相手意識を持ってコミュニケーションを図る体験をさせる。
- ②目的を持って英語を書いたり読んだりする活動を通して、自分の考えを整理したり、必要な情報を得たりする体験をさせる。
- ③自分の伝えたいことを整理したり、それをより分かりやすく伝えるために練習したりする活動において、互いに助言し合う場を設定する。

研修の視点2

学びを実感する
振り返りの工夫

- ④1 単位時間ごとに振り返りの視点を明確に示し、中間評価や振り返りカードの活用により、目標に沿って自他の学びを振り返ることができるようにする。
- ⑤コミュニケーションを図ることで得られた情報や、お互いの新たな発見など自分の考えの変容を共有する場を設定し、コミュニケーションの楽しさや大切さを実感できるようにする。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○御船町にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらに地域のよさなどを表す表現に慣れ親しむとともに、書くことに慣れ親しむ。 ○御船町のよさや将来について自分の考えを伝え合おうとする。	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度【コ】	外国語への慣れ親しみ【慣】	言語や文化に関する気付き【気】
①御船町のよさや将来どのような地域にしたいかについて、相手に伝わるように工夫して自分の思いや考えを話したり、相手の考えを理解しようとして聞いたりしている。	①御船町にある施設やない施設、欲しい施設について聞いたり言ったりしている。また、例文を参考に書いている。	①英語の書き方の規則に気付く。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時8／8）

単元のゴール：御船町のおすすめの場所や将来必要と思う施設について自分の考えを発表しよう

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 施設の名前の言い方を知る。 ○単元のゴールを知る。 ○施設や建物の言い方を練習する。	【慣】：観察，振り返りカード 【研究の視点1】 ①単元終末の発表場面をデモンストレーションで示し，活動への見通しを持たせる。 【研究の視点2】 ④振り返りの視点を焦点化して振り返りカードに示し，その視点から自他の学びを共有させる。
二	2	2 御船町にある施設，ない施設を表す表現を知り，自分の住んでいる地域を説明する。 ○We have~, We don't have~の表現に慣れ親しむ。 ○御船町にある施設やない施設について，例文を参考を書く。	【慣】観察，ワークシート 【研究の視点1】 ②御船町の施設で表現したい語句を選び，例文を参考に書かせる。
三	3 4	3 御船町にある施設のよさを表す表現を使って，自分の考えを伝え合う。 ○It's~, We can~,等を使って，御船町にある施設のよさを表す表現に慣れ親しむ。 ○御船町にある施設のよさを，例文を参考に書く。	【慣】：観察，ワークシート 【研究の視点1】 ①御船町の施設のよさについて既知の表現も活用して自分の考えを表現させる。 ②書く活動を通して自分の考えを整理する。
四	5 6	4 御船町に将来欲しいと思う施設について，その理由も含めて表現する。 ○I want ~等を使って，御船町にあって欲しい施設とその理由を表現する言い方に慣れる。 ○御船町にあって欲しい施設とその理由を，例文を参考を書く。	【慣】：観察，ワークシート 【研究の視点1】 ①御船町に欲しい施設とその理由を既知の表現なども活用して表現させる。 ②書く活動を通して自分の考えを整理する。
五	7	5 発表に向けて，自分の考えを整理して英文を書く。 ○御船町について紹介するミニポスターを作成する。	【気】：観察，ポスター 【研究の視点1】 ②書く活動を通して自分の考えを整理する。 ③ポスター作成や発表練習で助言し合う。
六	8 (本時)	6 ミニポスターを活用して，発表をする ○相手によりよく伝える工夫を考えながら伝える練習をする。 ○ミニポスターを見せながら発表し合う。 ○発表を通して感じたことや新たな発見などを共有する。	【コ】：発表，ポスター，振り返りカード 【研究の視点1】 ①相手意識を持って発表させる。 ②英文を読むことの達成感を味わわせる。 【研究の視点2】 ④中間評価で，相手意識のあるコミュニケーションのよさを共有させる。 ⑤相互評価により，コミュニケーションの成果を共有させる。

5 本時の学習

(1) 目標

御船町のよさや将来への願いを相手によりよく伝えることを意識しながら発表し合う。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
ウォームアップ 5分	1 英語であいさつをする。 2 復習をする。	○ジェスチャーを交えて教師の英語を聞かせ、児童が推測しながら聞くようにする。	絵カード
導入 7分	3 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Today's goal 御船町の未来予想図を発表しよう。</div>	○お互いの御船町の思いや考えを伝え合う場であることを確認し、活動への意欲を高める。	
	4 Activity 1 Practice	○相手によりよく伝える工夫について確認し、ペアによる練習で助言し合う。	発表用ポスター
展開 27分	5 Activity 2 Presentation (1) 活動の方法や留意点等を確認する。 (2) 発表する。 ・Aグループ発表 ・Bグループ発表 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【言語活動】 地域のよさや将来必要だと思ふ施設等について、自分の考えを発表し合う。</div>	徹底指導 (ポイント) 発表者、聞き手としてコミュニケーションの際の大切な視点及び、発表後、聞き手は感想を伝えることを確認する。 能動型学習 (ポイント) 相手に自分の考えがよりよく伝わるように、聞き手を意識しながら発表させる。また、聞き手は、発表後に感想を伝えるという目的を持って聞かせる。 【研究の視点1】 ①相手意識を持って発表させる。 【研究の視点2】 ④中間評価を行い、相手意識を持ってコミュニケーションを図る児童の姿をモデルとして示し、よさを共有させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評価：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (発表・ポスター・振り返りカード) 自分が住んでいる地域のよさや将来の願いについて、相手に伝える工夫をしながら発表したり相手の考えを分かろうとしたりして聞いたりしている</div> 【研究の視点①】 ②発表を聞くことができなかった友達のポスターを中心に作品を見合い、友達の考えを知る機会とする。 互いのポスターを読むことで、文字を読んだり書いたりすることの達成感を味わわせる。 【研究の視点2】 ⑤発表内容についての気づきや発表の工夫について共有する。	発表用ポスター
	(3) ポスターを読み合う。 (4) 発表の感想を伝え合う。		
まとめ 6分	5. 学習したことをまとめ、振り返る。 (1) 振り返りカードに記入する。 (2) 学んだことや感想を発表し合う。	【研究の視点2】 ④本時の目標を確認し、視点を明確にして振り返りをさせる。 ○単元を通してできるようになったことやコミュニケーションを図ったことで分かったことなどを共有し、次時への学習意欲を高める。	振り返りカード